

北九州切手のつどい2020 講演資料

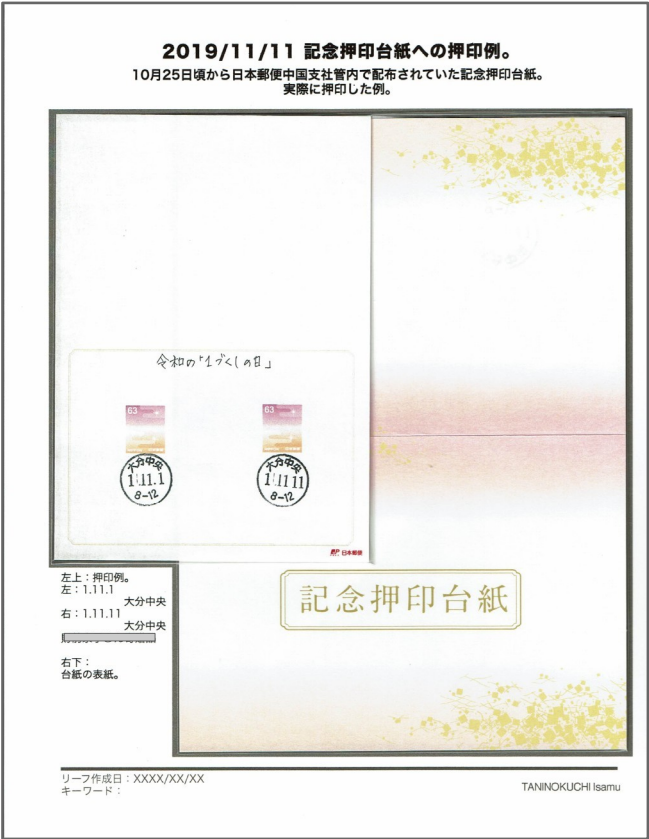
2. 消費税増税と天皇陛下即位の礼と一並び

●10月1日から消費税立が変更した事に伴い、郵便料金に変更。旧料金最終日や新料金初日、ポスト投函時のルールを適用したサドル便といった形で、色々と郵趣家便を作成できる機会になった。（右上）
喪中のはがきは11月以降に受け取る事のある年賀欠礼のはがきが自然な使い方に（左上）。

●10月22日から執り行われた、天皇陛下の「即位の礼」。国民に御即位を披露された「祝賀御列の儀（パレード）」も同日に開催する予定だったが、9月に襲来した台風の被害が甚大な事を理由に、11月10日に延期（左下から2番目）。

公益財団法人日本郵趣協会が主催した「天皇陛下御即位祝賀パレード展」は、当初東京都台東区浅草で開催予定だったが延期に伴い東京都豊島区目白に会場を変更。郵便局の臨時出張所は当初開催予定地の浅草郵便局が開設した。（中央）

●11月は令和に改元後、郵便局の日付印の数字がぞろ目になる最初のタイミング。記念押印用の台紙を配布した支社もあった（中国支社）（右下）。
開局や風景印の使用開始をする郵便局も（左下）。



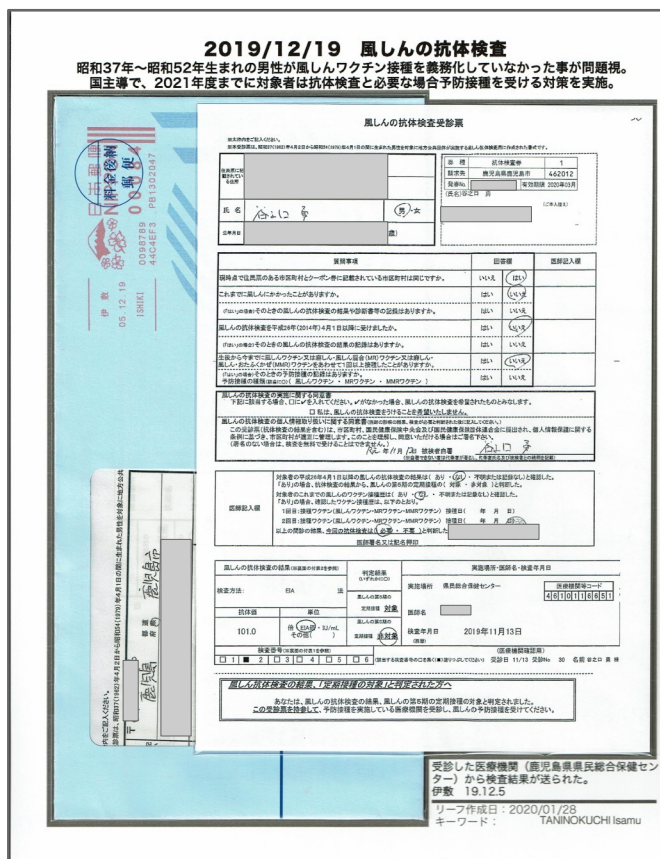
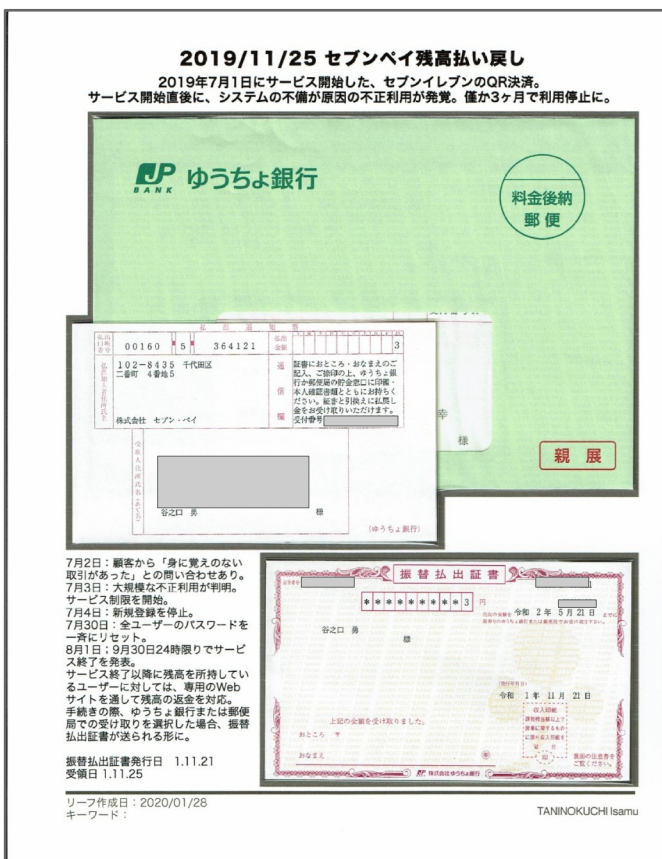
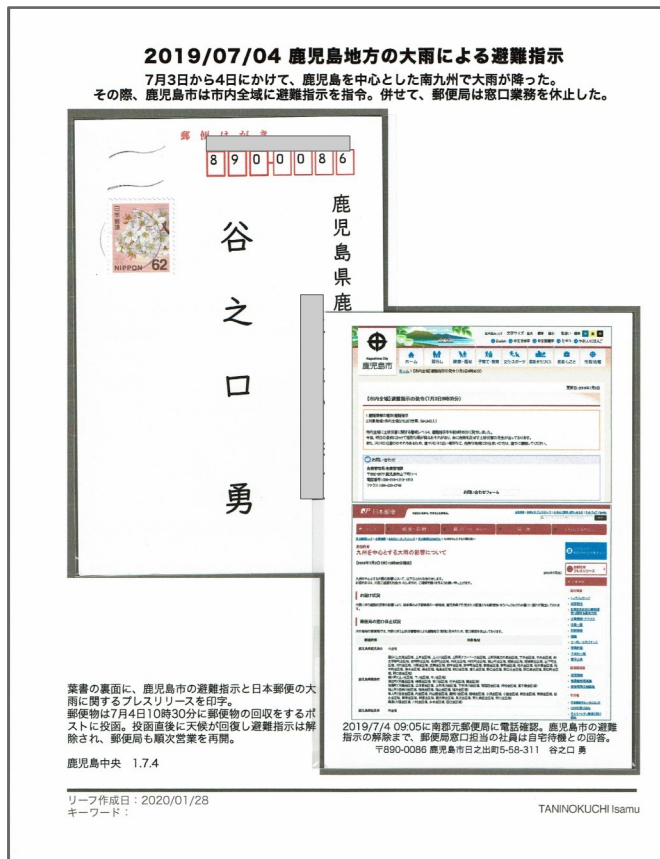
3. 2019年起きたその他の出来事

●大雨や台風をはじめとした、自然災害が多発。7月に南九州で降った大雨の際に作成した葉書。避難指示内容と郵便局のプレスリリースを印字した葉書を通常の郵便物として差し出した（右上）。

●キャッシュレス決済、特にQRコード決済が大きな話題となった1年。後発でかつシステム不具合が原因でごく短期間のサービス提供となった「セブンペイ」は郵便物として残すことができた。（左下）

●妊婦が罹患すると胎児に影響が生じる恐れがあるため、以前から男性でワクチン未接種の世代が存在する事が問題視されていた「風しん」。

国の主導で対策が行われ、検査案内や検査結果は郵便物を連絡手段として用いられる事に（右下）。



北九州切手のつどい2020 講演資料

4. 郵趣的に興味ある話題

●九州・沖縄の風景印

2019年は新規使用開始55局、図案変更5局、使用廃止1局。鹿児島県の奄美群島で5月7日一斉に使用開始（新規51局、図案変更2局）（右下）。ハートを図案に入れた風景印が多かったのも印象的。白杵駅の駅名標をモチーフにした白杵郵便局の図案変更後の風景印は斬新すぎる図案に（右上）。免田郵便局（右上から2番目）と水田郵便局（右上から3番目）は、図案の題材にハート型に関連した施設を描いている。廃止はスペースシャトルの型の外枠の変形印を使った八幡枝光郵便局。スペースワールドが閉園から2年近く経っての廃止となった。（左下）

●マケドニアが北マケドニアに

ユーゴスラビアから1991年に独立したマケドニア。国名の由来となる古代マケドニア王国（アレクサンダー大王の頃：紀元前7世紀）が現在のギリシア領に位置するため、国名についてギリシアから独立直後から猛反発を受けて国際問題に。2018年にギリシアとの対立が決着し、2月に国名を変更する事に。2019年は旧国名の切手と新国名の切手がそれぞれ発行する結果となった。

